取扱説明書

デジタルカメラ
品番 DSC-X1250（活用編）

リチウムイオン電池は
リサイクルへ

この商品はリチウムイオン
電池を使用しています。
リチウムイオン電池のリサ
イクルにご協力ください。

このたびは、本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
別冊の**「安全上のご注意」**は必ずお読みください。また、後々のために「取扱説明書（基本編）」とともに大切に保管してください。

● 取扱説明書、本体、定格板には色記号の表示を省略しています。
包装箱に表示している品番の（　）内の記号が色記号です。

本書の読みかた

この説明書では、次の記号でお知らせします。

ヒント	もう少し詳しい説明や、操作上の注意事項
注意!	特に注意していただきたい事項
[P　]	参照ページ

操作中に疑問に感じたり故障かな？と思った時は、「よくある質問[P35]」と「困った状態になった時 [P40]」をご参照ください。

もくじ

もくじ..1

■準備

メニューを出す 3
　メニューの出しかた...3
　メニューの操作方法...4
　メニューの紹介 5

■撮影

撮影設定について...11
　音声の記録/再生 11
　フォーカスエリア設定...13
　ホワイトバランス設定...14
　ＩＳＯ感度設定 15
　日付を写し込む 15

■再生

再生設定について...16
　プロテクト(消去禁止)設定 16
　画像回転...16
　リサイズ...16
　赤目現象補正 17
　コントラスト補正 17
　プリント予約 18
　スライドショー再生 21
　画像情報表示(インフォ画面) 22

■オプション

オプション設定について........ 23
ファイルＮｏ.メモリー設定........ 23
カード･内蔵メモリー初期化........ 25
カメラの設定リセット........ 26
内蔵メモリー・カード空き容量のチェック........ 27
電池残量のチェック........ 29

■他の機器との接続

テレビに接続する........ 31
ダイレクト印刷をする........ 32
印刷の準備........ 32

■付録

よくある質問........ 35
困った状態になった時........ 40
カメラ........ 40
シーン機能の制限事項........ 44
用語集........ 45

メニューを出す

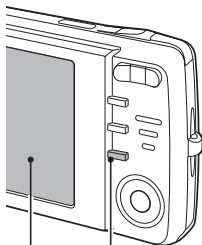
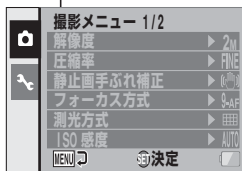
カメラの細かな設定は、メニューから行います。

メニューの出しかた

1 電源を入れ、撮影または再生モードにする

- 撮影メニューを出す時は撮影モード、再生メニューを出す時は再生モードにしてください。

2 [MENU]ボタンを押す

- 操作 1 で設定したモードのメニューが出ます。

メニューを消す

メニューは、[MENU] ボタンを押すと消えます。

メニューの操作方法

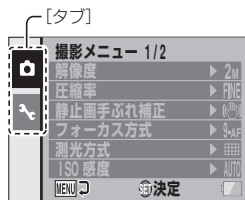
設定する項目を方向ボタンで選び、[SET] ボタンを押すと設定画面が出ます。

1 メニューを出す[P3]

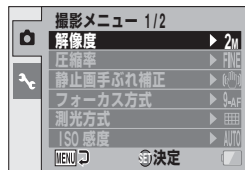
2 📷 または ▶ タブを選ぶ

[撮影メニューを出す]：
📷 タブを選ぶ

[再生メニューを出す]：
▶ タブを選ぶ

[オプションメニューを出す]：
🔧 タブを選ぶ

<例：撮影モードの場合>

3 方向ボタンの[▶]を押す

4 方向ボタンの[▲]または[▼]を押して、設定する項目を選ぶ

5 [SET]ボタンを押す

- 設定画面が出ます。
- 方向ボタンの[▲]または[▼]を押して設定を選び、[SET]ボタンを押すと、設定を完了します。
- [MENU] ボタンを押すと、メニューが消えます。

<例：[解像度]を選んだ場合>

メニューを出す(つづき)

メニューの紹介

撮影メニュー

※❼～❿は、方向ボタンの[▲]/[▼]を押すと出ます。

❶解像度メニュー/動画サイズメニュー

<1枚/連写撮影モード>

12M：4,000×3,000ピクセルで撮影します。
9M：4,000×2,256ピクセルで撮影します(16：9)。
6M：2,816×2,112ピクセルで撮影します。
4M：2,288×1,712 ピクセルで撮影します。
2M：1,600×1,200 ピクセルで撮影します。
0.3M：640×480ピクセルで撮影します。

<動画クリップ撮影モード>

TV：640×480ピクセルで撮影します。
WEB：320×240ピクセルで撮影します。
🎙：音声のみを記録します[P11]。

❷圧縮率メニュー(1枚/連写撮影モードのみ)

FINE：低圧縮で撮影します。
NORM：標準圧縮で撮影します。

❸手ぶれ補正メニュー

- 撮影中の手ぶれを補正して記録します。

<1枚/連写撮影モード>

手ぶれを補正します。
手ぶれを補正しません。

<動画クリップ撮影モード>

手ぶれを補正します。
手ぶれを補正しません。

❹フォーカス方式メニュー[P13]

9-AF：9点測距で撮影します。
S-AF：スポットフォーカスで撮影します。
AF：フォーカスロックした被写体にフォーカスを追従します。

❺測光方式メニュー

多分割測光になります。
中央重点測光になります。
スポット測光になります。

❻ISO感度メニュー[P15]

AUTO：自動的に感度を設定します(ISO64〜400)。
64：ISO感度64に設定します。
100：ISO感度100に設定します。
200：ISO感度200に設定します。
400：ISO感度400に設定します。
800：ISO感度800に設定します。
1600：ISO感度を1,600に設定します。
3200：ISO感度を3,200に設定します。
6400：ISO感度を6,400に設定します。

❼ホワイトバランスメニュー[P14]

AWB：カメラが自動的に判断し、撮影します。
晴天時の設定です。
曇天時の設定です。
蛍光灯照明時の設定です。
白熱灯照明時の設定です。
より正確にホワイトバランスを設定します。

❽露出補正メニュー

明るさを変えて撮影します。

❾ひずみ補正

- 撮影画像のひずみを補正します。

撮影画像のひずみを補正します。
OFF：撮影画像のひずみを補正しません。

❿日付写し込みメニュー[P15]

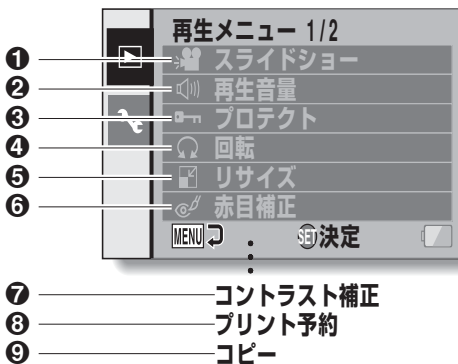
撮影時、日付を写し込みます。

撮影時、日付を写し込みます。
撮影時、日付を写し込みません。

※ 同時に設定できない機能を設定した場合は、後から設定した機能を優先し、他方の設定を自動的に変更します。

準備 メニューを出す

メニューを出す(つづき)

再生メニュー

※❼～❾のアイコンは、方向ボタンの[▲]/[▼]を押して、画面をスクロールすると出ます。

❶[スライドショー]
- スライドショー再生をします。

❷[再生音量]
- 動画クリップや音声ファイルの再生音量を設定します。

❸[プロテクト][P16]
- データにプロテクト（消去禁止）を設定します。

❹[画像回転][P16]
- 静止画を回転表示します。

❺[リサイズ][P16]
- 静止画の解像度を下げます。

❻[赤目補正][P17]
- 赤く写った目を自然な状態に補正します。

❼[コントラスト補正][P17]
- 画像に明暗（コントラスト）を付けて、はっきりした画像にします。

❽[プリント予約][P18]
- 印刷の設定を行います。

❾[コピー]
- カードと内蔵メモリーの間でファイルをコピーします。

メニューを出す(つづき)

オプションメニュー

※❼〜⓫は、方向ボタンの[▲]/[▼]を押して、画面をスクロールすると出ます

❶[日付時刻]
- カメラの内蔵時計を設定します。

❷[オープニング画面]
- 撮影モードで電源を入れた時に出る画面を設定します。

❸[操作音]
- カメラから出る音を設定します。

❹[ポストビュー]
- 静止画を撮影した後、撮影した画像がモニターに出ている時間を設定します。

❺[モニター明るさ]
- モニターの明るさを設定します。

❻[言語]
- モニターに表示する言語を設定します。

❼[TV方式]
- カメラの[USB/AV]端子から出るテレビ信号の方式を設定します。

❽[オートパワーオフ]
- オートパワーオフ機能が働いて、電源が切れるまでの時間を設定します。

❾[ファイルNo.メモリ] [P23]
- ファイルNo.メモリ機能のON/OFFを設定します。

❿[フォーマット] [P25]
- カメラの内蔵メモリーまたはカメラに装着したカードをフォーマットします。

⓫[設定リセット] [P26]
- カメラの設定を工場出荷時の状態にします。

音声の記録/再生

動画クリップ撮影モードでは、音声のみを録音することができます。音声は、モノラルで録音します。

音声を記録する

1 **動画クリップ撮影モードの撮影メニューを出す [P3]**

2 **動画サイズメニューから音声アイコン[🎙]を選び、[SET]ボタンを押す**

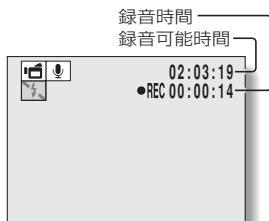
3 **[MENU]ボタンを押す**

- 録音可能状態になります。

4 **シャッターボタンを押す**

- 録音を開始します。録音中はモニターに録音時間と録音可能時間が出ます。
- シャッターボタンを押し続ける必要はありません。
- 録音中は、マイクを指などでふさがないように注意してください。

5 **録音を終了する**

- もう一度シャッターボタンを押すと、録音が終了します。

音声を再生する

録音した音声を再生します。

1 音声データを表示する

- 画面に音符マークが出ます。

2 再生する

こうするには	こうします
順方向再生	[SET]ボタンを押す
再生中止	再生中に方向ボタンの[▼]を押す
一時停止	再生中に[SET]ボタンを押す 早送り/早戻し中は方向ボタンの[▲]を押す
早送り	順方向再生中に方向ボタンの[▶]を押す ※方向ボタンの[▶]を押すたびに、速度が以下のように変わります。 通常速度→2倍速→5倍速→10倍速→15倍速 方向ボタンの[◀]を押すと、速度が元に戻ります。
早戻し	順方向再生中に方向ボタンの[◀]を押す ※方向ボタンの[◀]を押すたびに、速度が以下のように変わります。 15倍速←10倍速←5倍速 方向ボタンの[▶]を押すと、通常再生に戻ります。
通常再生に戻す	[SET]ボタンを押す
音量調整	**大きくする**：再生中にズームスイッチの[T]を押す **小さくする**：再生中にズームスイッチの[W]を押す

- 倍速再生時、音声は再生しません。

撮影設定について(つづき)

フォーカスエリア設定

オートフォーカス(ピント合わせ)の方式が選べます。
9 点測距フォーカス：モニターから見える撮影範囲の 9 箇所のフォーカスポイントでピントを合わせます。ピントが合ったところには、ターゲットマーク ⛶ が出ます。
スポットフォーカス：モニターの中央部分の被写体にフォーカスを合わせます。
AF シーカー：フォーカスロックした被写体にフォーカスを固定します。被写体の動きに合わせて、フォーカスポイントを自動で移動します。

スポットフォーカスに設定した場合
- 画面の中央にフォーカスマーク＋が出ます。

AFシーカーに設定した場合
- 画面の中央にフォーカスマーク＋が出ます。
- フォーカスロックすると、ピントを合わせた部分にシーカーマークが出ます。
- フォーカスロックしている間は、ピントを合わせた被写体が移動しても、シーカーマークが自動的に被写体を追いかけ続けます。
- フォーカスロックに失敗した場合は、シーカーマークが消えます。
- 暗い場所ではシーカーマークの動きが遅くなる場合があります。
- AF⊙ 設定時、デジタルズームは動作しません。

シーカーマーク

ホワイトバランス設定

このカメラは、光源の色が変化しても、撮影画像の色が変化しないように調整するホワイトバランス自動調整機能を搭載しています。特に光源を指定する場合は、ホワイトバランスの設定をしてください。

1 撮影メニューを出す[P3]

2 [ホワイトバランス]を選び、[SET]ボタンを押す

- ホワイトバランスメニューが出ます。

AWB：撮影現場の天候や照明をカメラが判別し、自動的にホワイトバランスを調整します。

☼：晴天時の設定です。

☁：曇天時の設定です。

蛍光灯：蛍光灯による照明時の設定です。

白熱灯：白熱灯による照明時の設定です。

ワンプッシュ：より正確にホワイトバランスをとる時の設定です（ワンプッシュ）。光源が特定できない場合などに使用してください。

ホワイトバランスメニューからワンプッシュアイコンを選び、白い紙を画面いっぱいに表示して[SET]ボタンを押すと、ホワイトバランスが設定できます。他のホワイトバランス設定を行う場合は、操作3を行ってください。

3 目的のアイコンを選び、[SET]ボタンを押す

- ホワイトバランスの設定ができました。

ホワイトバランスの設定を解除するには

- 操作1 2を行い、AWBアイコンを選んで[SET]ボタンを押します。

撮影

撮影設定について

撮影設定について（つづき）

ＩＳＯ感度設定

初期設定では、自動的に被写体の明るさに応じてISO感度を設定するようになっていますが、ISO感度を固定することができます。

ヒント

- ISO感度を高く設定するほど、速いシャッタースピードでの撮影や暗い場所での撮影が可能になりますが、撮影画像にノイズが増える場合があります。

注意!

動画クリップ撮影でフリッカー（画面のちらつき）が発生する？

- 蛍光灯照明の下で動画クリップ撮影をすると、撮影画像に激しいフリッカーが発生する場合があります。

解像度が[4M]になった？

- ISO感度を[3200]以上に設定すると、解像度の設定は自動的に[4M]になります。

日付を写し込む

撮影した画像に日付を写し込むことができます。

ヒント

撮影年月日と日付写し込みについて

- 画像を編集すると、撮影年月日の記録は画像編集を行なった日付に変わりますが、日付写し込みの日付は変わりません。

連写速度が遅い？

- 日付写し込みを[ON]に設定していると、連写速度が遅くなる場合があります。

写し込んだ日付が「----.--.--」になる？

- 日付・時刻を設定していません。カメラの日付・時刻を設定してください。

再生設定について

プロテクト(消去禁止)設定

データにプロテクト(消去禁止)を設定します。

注意!

● プロテクトをかけたデータでも、カードを初期化すると消えます。

画像回転

静止画を回転して見ることができます。

● 9画面、20画面マルチ再生では、回転した表示になりません。
● プロテクトした画像は回転できません。

リサイズ

静止画のサイズを小さくして、新しく静止画像を作ることができます。

リサイズできない?
● 変更後の画像サイズより小さい画像をリサイズすることはできません。

再生設定について（つづき）

赤目現象補正

人物を撮影した際に、目が赤く写ることがあります（赤目現象）。赤く写ってしまった目を自然な状態に近づけることができます（赤目補正）。

「赤目補正できません」表示が出る？

- 赤目現象を補正することができませんでした。
- このカメラの赤目補正機能は、カメラが赤目現象と認識した部分を自動補正します。このため、目が赤く写っていても補正できなかったり、赤く写った目以外の部分を赤目現象と認識し補正する場合があります。

保存した画像の撮影年月日について

- 再生時に表示する補正後の画像の日付表示は、補正して保存した日付になります。

コントラスト補正

画像に明暗（コントラスト）を付けて、はっきりした画像にします。

保存した画像の撮影年月日について

- 再生時に表示する補正後の画像の日付表示は、補正して保存した日付になります。

プリント予約

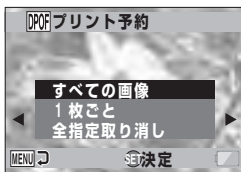
静止画は、プリンタで印刷することはもちろん、従来の写真のようにデジタルプリント取扱店でプリントができます。またこのカメラは DPOF 規格を採用しており、プリントする枚数の指定や日付けプリントの有無を指定することもできます。

プリント予約画面を出す

1 再生メニューを出し[P3]、[プリント予約]を選んで[SET]ボタンを押す

[すべての画像]：
すべての画像にプリントの予約を行います。

[1枚ごと]：
画像1枚ごとにプリントの予約を行います。

[全指定取消し]：
プリント指定の内容をすべて取り消します。プリントを予約していない場合は選べません。

DPOF規格について

- DPOFは、プリントオーダー規格の1つです。カメラでプリント内容を予約することで、効率よくプリントができます。DPOF規格に対応したプリンタにカメラを直接つないで印刷することもできます。またプリント予約をすると、予約画像印刷[P33]で一度に印刷することもできます。

プリントの仕上がりについて

- 回転表示[P8・16]した画像は、元の画像の状態でプリントします。
- プリントの仕上がりは、プリントサービスやプリンタの仕様によって異なります。

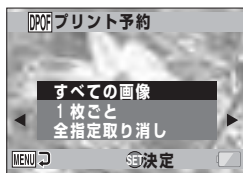
日付・プリント枚数を予約する

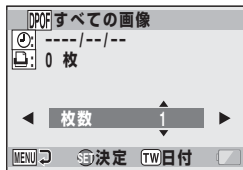
1 画像ごとに個別に予約する方法(1 枚ごと)と、すべての画像に同じ予約をする方法(すべての画像)があります。

1 プリント予約画面を出す [P18]

2 [すべての画像]または [1枚ごと]を選ぶ

[すべての画像]：
すべての画像に、同じプリント予約をします。

[1枚ごと]：
表示している画像にプリント予約をします。

3 [SET]ボタンを押す

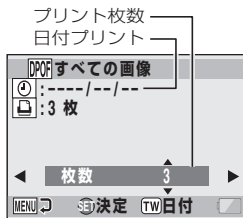
- 日付・プリント枚数予約画面が出ます。
- [1 枚ごと]を選んだ場合は方向ボタンの[◄]/[►]を押して、プリント予約をする画像を表示してください。
- 日付・プリント枚数予約画面には、表示中の画像のプリント予約が出ます。
  方向ボタンの[◄]/[►]を押すと、各画像のプリント予約が確認できます。

<予約済みの場合>

4 日付プリントまたはプリント枚数を予約する

<プリント枚数を予約する>

- 方向ボタンの[▼]/[▲]を押す
  - ・枚数表示が変わります。
  - ・希望の枚数を表示してください。
- [SET]ボタンを押す
  - ・印刷枚数を確定します。

<日付プリントを予約する>

- 印刷枚数を確定した画面で、ズームスイッチを押す
- [SET]ボタンを押す

5 [MENU]ボタンを押す

- プリント枚数および日付プリントを予約しました。
- プリント予約画面に戻ります。

日付プリントを予約できない？

- 日付・時刻を設定せずに撮影した画像の場合、日付印刷はできません。

再生設定について（つづき）

スライドショー再生

再生中に [SET] ボタンまたは [MENU] ボタンを押すと、スライドショー再生を中止します。

- 音声データはスライドショーで再生しません。

画像情報表示（インフォ画面）

カメラで記録したファイルの情報を表示（インフォ画面）することができます。

1 情報を表示するファイルをモニターに出す

2 [MENU]ボタンを約1秒以上押す

- インフォ画面が出ます。
- インフォ画面は、再度[MENU]ボタンを押すと消えます。

❶動画モードの設定
❷画像または音声番号
❸プロテクトの設定
❹ファイルサイズ
❺撮影または録音時間
❻露出補正の設定
❼絞り値
❽シャッタースピード
❾電池残量表示
❿撮影年月日、時刻
⓫静止画モードの設定
⓬ISO感度の設定

<動画クリップの場合>

<静止画の場合>

<音声の場合>

オプション設定について

ファイルNo.メモリー設定

初期化したカードを使うと、撮影した画像のファイル名(画像番号)は自動的に0001から始まります。再度初期化したり、別の初期化したカードを使うと、ファイル名は再び0001から始まります。これはファイルNo.メモリ機能が切[OFF]になっているためですが、この場合複数のカードに同じファイル名が存在することになり、パソコンに保存する時など、誤って上書きしてしまう可能性があります。ファイルNo.メモリ機能を入[ON]にすると、カードを初期化したり交換しても、ファイル名の番号を継続して付けることができます。

〈ファイルNo.メモリ機能　切[OFF]〉

〈ファイルNo.メモリ機能　入[ON]〉

●交換したカードに画像が残っていた場合、撮影した画像のファイル名は次のようになります。

交換前に撮影した画像番号より小さいファイル名の画像が残っていた：撮影中のファイル名を継続した番号になります。

交換前に撮影した画像番号より大きいファイル名の画像が残っていた：最後のファイル名からの連番になります。

●ファイルNo.メモリ機能は、切[OFF]にするまでファイル名が連番となります。撮影の区切りがついたら、切[OFF]に戻すことをおすすめします。

内蔵メモリーの場合は？

●ファイルNo.メモリ機能は、内蔵メモリーに対しても同様に働きます。

オプション設定について(つづき)

カード･内蔵メモリー初期化

・購入後、初めて使うカード
・パソコンや他のカメラで初期化したカード
は、必ずこのカメラで初期化(フォーマット)してからご使用ください。
カードのロックスイッチを｢LOCK｣の位置にしている場合は、初期化できません。ロックスイッチをロック解除の位置にしてから、初期化をしてください。

注意!

初期化中のご注意

● 初期化中は、カメラの電源を切ったり、カードを入れたり取り出したりしないでください。

初期化をすると、データが消えます

● 初期化すると、記録したデータは、すべて消えます。プロテクトしたデータも消えますので、初期化をする前に大切なデータはパソコンのハードディスクなどに保存してください。

カードを廃棄/譲渡するときのご注意(初期化をしてもデータが復元できる?)

● カメラやパソコンの機能によるデータの削除やフォーマットをしても、カードの管理情報を変更するだけで、データはカードに残ったままで、完全には消去できません。
● フォーマットを行っても、データを復元するソフトを使うと、カード内のデータを復元できる場合があります。一方、本機で完全フォーマットを行うと、復元ソフトを使ってもデータの復元ができなくなります。
● カードを廃棄または他人に譲渡する場合は、カード本体を物理的に破壊するか、本機で完全フォーマットを実行するか、市販のデータ消去専用ソフトなどを使ってカード内のデータを完全に消去することをおすすめします。カード内のデータは、お客さまの責任において管理してください。

カメラの設定リセット

各設定画面で変更した設定を工場出荷時の設定に戻します。

● 設定をリセットしても、以下の設定は保持します。
日付時刻の設定、言語、TV方式、ファイルNo.メモリ

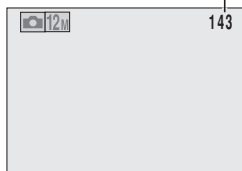
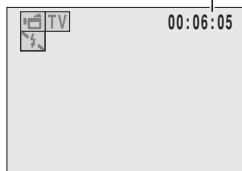
内蔵メモリー・カード空き容量のチェック

カードの空き容量は、撮影可能枚数や撮影または録音可能時間の表示で確認することができます。

1 [ON/OFF]ボタンを押して電源を入れる

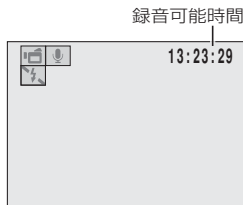
<静止画の撮影可能枚数をチェックする場合>
撮影モードを1枚または連写撮影モードにする

<動画クリップの撮影可能時間をチェックする場合>
撮影モードを動画クリップ撮影モードにする

- モニターに撮影可能時間が出ます。
- 撮影可能枚数や時間表示は、解像度や動画サイズの設定に応じて変わります。

＜静止画撮影画面＞

＜動画クリップ撮影画面＞

録音可能時間のチェック

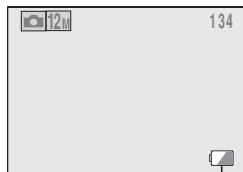
1 録音可能状態にする

● 録音可能時間が出ます。

● 撮影可能枚数または、撮影可能時間表示が[0]になると、撮影ができなくなります。新たに撮影する場合は、別のカードに取り替えるか、パソコンに画像を保存した後、画像を消去してください。
● 撮影可能枚数または撮影可能時間表示が[0]になっても、解像度または動画モードの設定を変えると撮影が可能になる場合があります。
● 撮影可能枚数の最大値は「99999」、撮影可能時間/録音可能時間の最大値は「99：59：59」です。大容量カードをお使いの場合、正しい数値が表示されないことがありますので、ご注意ください。

電池残量のチェック

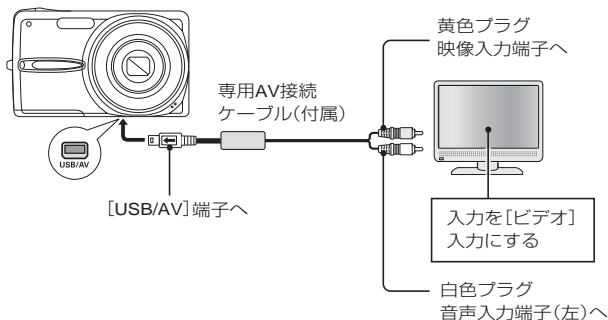
電池を使用している場合は、モニターで電池残量が確認できます。撮影の前には必ずチェックしてください。

1 [ON/OFF]ボタンを押して、電源を入れる

- モニターの右下に、電池残量を示すアイコンが出ます。
- 電池の特性により、低温時には 表示が早い時点で点灯するなど、電池残量を正しく表示することができません。また、周囲の温度や使用状態などにより表示状態が変わるため、残量表示はおよその目安と考えてください。

電池残量表示	電池の残量
表示なしまたは	ほぼいっぱいの容量があります。 （ は一部の動作モードでのみ出ます）
	容量が少なくなりました。
	もうすぐ撮影や再生ができなくなります。
	撮影時、シャッターボタンを押している間点滅すると、撮影はできません。電池を充電してください。

- 撮影画像がある場合は、インフォ画面[P22]でも電池残量が確認できます。
- 同じ種類の電池でも、電池の使用可能時間が異なることがあります。
- 電池の消耗は、撮影条件(フラッシュの発光回数、モニターの入/切)や周囲の温度(10℃以下の低温)によっても変わるため、撮影できる枚数は大きく異なります。
- 旅行や結婚式などの大切な撮影や、寒冷地など電池の消耗が速くなる環境で撮影する場合は、予備の電池を用意されることをおすすめします(スキー場など寒い屋外で使用する場合は、電池をポケットに入れるなどして保温したものをご使用ください)。

テレビに接続する

カメラの [USB/AV] 端子と、テレビの音声・映像入力端子を付属の専用 AV 接続ケーブルで接続します。

再生のしかた

- 接続後、テレビの入力切り替えを[ビデオ]入力にしてください。
- AV接続ケーブルをつないだ時は、カメラのモニターの表示が消えます。
- カメラのモニターでの再生と同じ手順で再生できます。
- 音声メモや音声を再生する時も、カメラで再生する時と同じ操作で再生できます。

注意!

ケーブルの抜き差しは、ていねいに

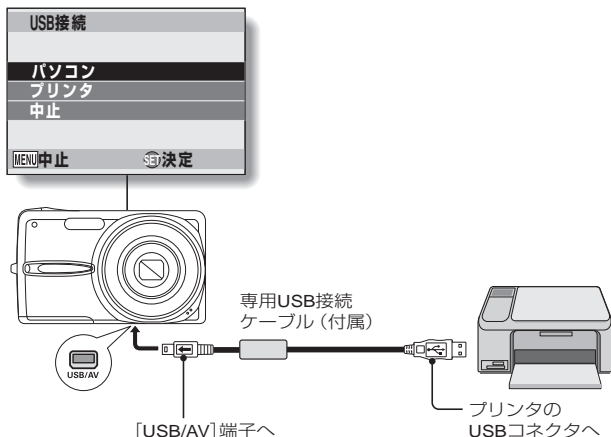
- 接続するときは、プラグの向きとコネクタの形状をよく確認し、まっすぐに接続してください。無理に接続すると、端子を破損するおそれがあります。
- ケーブルを強く引っ張ると、ケーブルやコネクタ部を破損するおそれがあります。

ダイレクト印刷をする

このカメラはPictBridgeに対応しており、PictBridge対応プリンタに直接接続し、カメラのモニターで写真選択や印刷開始を指定することができます(PictBridge印刷)。

印刷の準備

1 プリンタの電源を入れ、付属の専用USB接続ケーブルでカメラをプリンタに接続する

- カメラの[USB/AV]端子とプリンタのUSBコネクタを接続します。
- カメラのモニターにUSB接続画面が出ます。

2 [プリンタ]を選び、[SET]ボタンを押す

3 PictBridge印刷モードになる

- PictBridge印刷モードになり、PictBridgeメニュー画面が出ます。

4 目的の印刷方法を選び、[SET]ボタンを押す

[選択画像印刷]：静止画を選んで印刷します。

[全画像印刷]：静止画をすべて印刷します。

[予約画像印刷]：プリントの予約をした静止画を印刷します。

[プリンタ設定変更]：用紙の種類やサイズ、レイアウトや印刷品質などをカメラ側で設定して印刷します。

印刷を中止するには

❶印刷中に方向ボタンの[▼]を押す
　・印刷中止の確認画面が出ます。
❷[中止]を選び、[SET]ボタンを押す
　・[戻る] を選んで[SET]ボタンを押すと、印刷を続行します。

全画像印刷について

- 静止画が1000 枚以上ある場合は印刷できません。
- 不要な画像を消去してから印刷してください。

予約画像印刷について

- プリンタがDPOFに対応していない場合、予約画像印刷はできません。

プリンタ設定変更について

- プリンタ設定変更画面の設定項目は、接続するプリンタによって異なります。
- プリンタ設定変更画面に出ないプリンタ機能を使う場合は、[ ]に設定してください。
- プリンタにない機能をカメラで設定した場合、カメラの印刷設定は自動的に[ ]になります。

注意!

ケーブルの抜き差しは、ていねいに

- 接続するときは、プラグの向きとコネクタの形状をよく確認し、まっすぐに接続してください。無理に接続すると、端子を破損するおそれがあります。
- ケーブルを強く引っ張ると、ケーブルやコネクタ部を破損するおそれがあります。

プリンタ接続時の注意

- 接続している状態でプリンタの電源を切ると、カメラが正常に動作しなくなる場合があります。カメラが正常に動作しなくなった場合は専用USB接続ケーブルを抜き、カメラの電源を切って、再度接続を行ってください。
- PictBridge印刷中での操作は、ボタン操作に対する反応が遅くなります。
- 電池を使って印刷をする場合は、電池残量が十分あることを確認してください。

よくある質問

よくあるお問い合わせをまとめました。操作に疑問を感じた時などに、ご覧ください。

	質　問	原　因	このようにしてください
電源	電源が入らない？	寒さで電池の性能が一時的に低下した	電池をポケットなどで温めてから使用してください。
	すぐに電池がなくなる？	周囲の温度が低すぎる	周囲の温度を10℃～40℃に保ってください。
		電池の寿命が尽きた	新しい電池に交換してください。
	（電池マーク点滅）表示が出る？	電池残量が少なくなった	充電してください。
撮影	フラッシュが光らない？	被写体が明るくて、カメラがフラッシュ発光の必要がないと判断した	故障ではありません。そのまま撮影してください。
	設定した内容は、電源を切っても記憶している？	―	セルフタイマーと露出補正の設定以外は、電源を切っても記憶しています。

	質　問	原　因	このようにしてください
撮影	画像の使用目的に合った画質とは？	—	12M 9M 6M 4M：サイズがA4以上の印刷やトリミング（部分拡大）して印刷する場合に適しています。 2M：通常の写真（サービス版）サイズで印刷する場合に適しています。 0.3M：ホームページに掲載したり、メールに添付して送信する場合に適しています。
	デジタルズームと光学ズームの使い分けは？	—	光学ズームはレンズの光学特性を利用するため、精細感を損なわずに撮影することができます。一方デジタルズームはCCDに写った画像の一部を拡大するため、撮影画像が粗くなる場合があります。
	遠景撮影時のピント外れをなくすには？	—	シーン機能を風景モード に設定して撮影してください。 または、フォーカスレンジをマニュアルフォーカスMFにして、焦点距離を∞に設定してください。

よくある質問（つづき）

	質　問	原　因	このようにしてください
モニター	寒い所で使用すると、画像が尾を引いて見えることがある？	液晶の性質による現象	故障ではありません。 輝点などはモニターにのみ現れるもので、記録することはありません。
	赤、青、緑などの輝点が点灯したままになることや、小さな黒点が見えることがある？		
再生画像	画像が明るすぎる？	被写体が明るすぎた	撮影時に、カメラの向きを変えるなどの工夫をしてください。
	ピントが合っていない？	フォーカスロックができていない	カメラを正しく構え、ピントを固定してから、シャッターボタンを静かに押してください。
	ズームジャンプ再生できない？	ズームジャンプ再生で拡大して保存した画像や動画クリップでズームジャンプ再生ができない。	故障ではありません。
	画像が出ない（?表示が出る）？	このカメラ以外のカメラで撮影したカードを使用すると、誤動作することがある	このカメラで撮影したカードを再生してください。
	縦の縞模様が出る？	明るい被写体を動画クリップ撮影した時は、モニターや撮影画像に縦の縞模様（スミア）が発生することがある	故障ではありません。

	質　問	原　因	このようにしてください
再生画像	拡大表示した画像が粗い？	機能上、画像が粗くなる	故障ではありません。
	再生画像が粗い？	デジタルズームを使って撮影した	故障ではありません。 光学ズームの範囲内で撮影してください。
	パソコンで加工した画像をカメラで再生したい？	—	パソコンで加工したデータの再生は保証しかねますので、ご了承ください。
印刷	PictBridge 印刷中にメッセージが出た？	プリンタの異常	プリンタの取扱説明書を参照してください。
その他	[カード残量がありません][内蔵メモリー残量がありません]表示が出る？	カードまたは内蔵メモリーに空き容量がない	不要なデータを消去するか、空き容量のあるカードを使用してください。
	「カードロックされています」表示が出る？	カードのロックスイッチが「LOCK」（書き込み禁止）の位置になっている	ロックスイッチをロック解除の位置にしてください。
	カメラの操作ができない？	カメラの回路が一時的に異常になった	電池を取りはずしてしばらく放置した後、電池を入れ直してください。

	質　問	原　因	このようにしてください
その他	海外で使用できる？	—	このカメラは日本国内仕様であり、海外ではアフターサービスも受けられません。電源コードについては、最寄のお客さまご相談窓口にご相談ください。
	[システムエラー]表示が出た？	カメラ内部やカードなどに異常が発生した	下記の項目をそれぞれ確認してください ①カードをカメラから取り出し、再度カードを入れる ②電池を取り出し、再度電池を入れる ③他のカードと交換し、確認する 上記を確認いただいても[システムエラー]表示が出る場合は、お買い上げ販売店にご相談ください。

困った状態になった時

故障かな？と思った時は、以下の項目をご確認ください。
基：基本編、活：活用編

カメラ

	困った状態	原　　因	このようにしてください	参照ページ
電源	電源が入らない	電池が消耗している	充電する	基 - 9
		電池が正しく入っていない	電池の向きに注意し、正しく入れる	基 -13
		スロットカバーを完全に閉じていない	スロットカバーを完全に閉じる	
	なにもしていないのに電源が切れた	オートパワーオフ機能が働いた	故障ではありません。	基 -18
撮影	シャッターボタンを押しても撮影ができない	電源が入っていない	オートパワーオフ機能が働いている時は電源を入れた後、撮影する 電源が切れている場合は、[ON/OFF] ボタンを押す	基 -18
		撮影可能枚数/時間いっぱいに撮影している	カードを交換する	基 -13
			不要な画像を消去してから撮影する 必要な画像は保存してから消去する	基 -36

困った状態になった時(つづき)

	困った状態	原　因	このようにしてください	参照ページ
撮影	フラッシュが光らない	フラッシュの設定が発光禁止になっている	強制発光または自動発光の設定にする	基-51
		電池が消耗している	充電する	基-9
	「電池残量がありません」メッセージが出る	電池が消耗している	充電する	基-9
	ズームを操作した時、ズーム動作が一瞬止まることがある	光学ズームが最大倍率になった	故障ではありません ズームスイッチをはなし、再度押す	基-49
	撮影画像にノイズが出る	ISO感度が高すぎる	ISO感度を低く設定する	活-6・15
	蛍光灯照明の下での動画クリップ撮影時、撮影画像に激しいフリッカー(画面のちらつき)が発生する	シャッタースピードが速くなるための現象	ISO感度の設定を 200 以下にする	活-6・15
モニター	再生画像が出ない	再生モードになっていない	再生ボタン[►]を押す	基-22

	困った状態	原　　因	このようにしてください	参照ページ
再生画像	画像が暗い	フラッシュを指などで覆っていた	カメラを正しく構え、フラッシュに指などがかからないようにする	—
		被写体が遠くにあった	フラッシュ撮影可能範囲内で撮影する	基 -62
		逆光で撮影した	強制発光モードで撮影する	基 -51
			露出補正をする	活 -6
		光量が不足していた	ISO 感度を設定する	活 -6・15
	画像が明るすぎる	フラッシュを強制発光に設定していた	強制発光以外のフラッシュモードにする	基 -51
		被写体が明るすぎた	露出補正をする	活 -6
		ISO 感度の設定が正しくない	ISO 感度の設定を AUTO にする	活 -6・15
	ピントが合っていない	被写体との距離が近すぎる	フォーカスを正しく設定する	基 -55
		フォーカスの設定が正しくない		
		シャッターボタンを押す時にカメラが動いた	カメラを正しく構え、シャッターボタンを正しく押す	基 -27
		フォーカスロックができていない		
		レンズが汚れていた	レンズをきれいにする	—

困った状態になった時（つづき）

	困った状態	原　　因	このようにしてください	参照ページ
再生画像	室内で撮影した画像の色がおかしい	照明の影響を受けている	フラッシュを強制発光に設定して撮影する	基 -51
		ホワイトバランスの設定が正しくない	ホワイトバランスの設定を正しくする	活 - 6・14
	画像の一部が欠けている	レンズに指やストラップなどがかかっていた	カメラを正しく構え、レンズに指やストラップなどがかからないようにする	—
	[画像がありません] 表示が出る	装着しているカードまたは内蔵メモリーに画像がない	撮影してから再生する	—
画像編集	画像の加工や回転ができない	画像にプロテクトを設定している	プロテクトを解除してください。	活 - 8・16
その他	[プロテクトされています] 表示が出て、データを消去できない	消去しようとしているデータにプロテクトを設定している	プロテクトを解除する	活 - 8・16
	カードに記載の容量に等しいサイズのファイルが記録できない	記録容量が、カードに表示している数値より少ない	カードの仕様によっては、カードに表示している記録容量を持たない場合があります。詳しくは、カードの説明書をご覧ください。	基 -64

シーン機能の制限事項

	フォーカスレンジをマクロ には設定できません。
	フォーカスレンジをマクロ には設定できません。 フォーカス方式を AF シーカー AF⊙ には設定できません。 デジタルズームは使えません。
	解像度を 2M 以上に設定できません。 1 枚撮影時でも、フラッシュは使えません。
	フォーカスレンジをマクロ には設定できません。
	フォーカスレンジをマクロ 、マニュアルフォーカス MF には設定できません。 1 枚撮影時でも、フラッシュは使えません。 フォーカス方式を AF シーカー AF⊙ には設定できません。
	フォーカスレンジをパン PF、マクロ 、マニュアルフォーカス MF には設定できません。 フォーカス方式を AF シーカー AF⊙ には設定できません。 デジタルズームは使えません。

用語集

あ

赤目
目の血管にフラッシュの光が反射して、瞳孔部分が赤く写ってしまう現象。夜の屋外などの暗い場所で、目の瞳孔が開いているときに生じやすい。

か

解像度
ある一定の範囲内に点または線が何個あるかを示すことによって、その画像のキメの細かさを表す尺度。たとえば、dpi（ドット・パー・インチ）という場合は、1インチ内に含まれるドットの数を表す。

光学ズーム
従来は単に「ズーム」といっていたが、デジタルカメラの普及でデジタルズームと区別するために使う。実際にレンズを動かして焦点距離を変えることで、レンズに入った光がCCDに像を結ぶまでの距離が変わる。レンズの焦点距離を短くすると広い範囲が写り広角となり、焦点距離を長くすると写る範囲が狭くなるが遠くのものが大きく写り、望遠となる。
参照：焦点距離

さ

絞り
目の瞳のようにレンズの開口部を大小調節し、光の量を制限する機構。絞りによって調整される値を「絞り値」または「F値」といい、「F1、F1.4、F2、F2.8、F4……」と表記される。この数値を大きくすることを「絞る」、小さくすることを「開ける」という。絞りの数値が大きくなると、それだけCCDに当たる光の量が少なくなる。

シャッタースピード（シャッター速度）
時間によってCCDに当たる光の量を制限する機構。メカニカルシャッター搭載機の場合は、機械的な遮断幕を使い、電子シャッター搭載機の場合は、CCDのON/OFFによって時間を制御する。 シャッタースピードを速くすると、それだけCCDに光が当たる時間が短くなる。

焦点距離
レンズの中心点からレンズが像を結ぶ点（焦点）までの距離をmmで表したもの。同じ位置から撮影する場合、この数値が長いほど被写体は大きく写り（望遠）、短いほど小さく写る（広角）。なお、同一の焦点距離であっても、CCDのサイズが異なれば、画面に写る範囲は違ってくる。そのため、デジタルカメラの場合は35mmフィルムの焦点距離に換算して表記する。

シーンセレクトショット
スポーツモード、ポートレートモード、夜景ポートレートモードなど、撮りたいシーンに合わせてモードを選ぶだけで、絞りやシャッタースピードを自動で設定できる機能。カメラに詳しくなくとも、簡単に綺麗な写真が撮れる。例えば、スポーツモードは高速シャッターをきりたいとき、ポートレートモードは（ぼけを引き出すために）できるだけ開放F値に近い絞り値で撮影したいときに使う。

スポット測光
画面内の狭い一部分だけを測光する方式。画像の特定の部分に正確な露出が必要な場合に適している。舞台照明（スポットライトを浴びている人物の撮影）や逆光での撮影など、主要被写体と背景との間に大きな明るさの差がある場合に役立つ。

スミア
太陽などの強い光源を画面中に入れて撮影した場合に発生する光の筋で、

CCDを使用する機器で起こる現象(強い光源を撮影したときに、垂直転送路に電荷が流れ込んで発生する)。

スローシンクロ
低速シャッターを使いながら、同時にストロボを発光させること。通常のストロボ発光モードの場合は、手ブレの生じにくいシャッタースピードに自動設定される。ところが、スローシンクロモードの場合は、その自動設定が解除され、低速シャッターを使うことができるので、意図的にブレを表現したり、ストロボ光の届かない背景まで明るく写し出すことができる。

た

デジタルズーム
撮影時に画像の1部分を切り取って拡大し、望遠レンズを使ったようにみせる機能。この場合、焦点距離を変える通常の光学式ズームに比べて画質は劣る。デジタルズームが登場したため、レンズを動かして実際の焦点距離を変えるズームを「光学ズーム」と呼んで区別するようになった。

テレ
望遠のこと。ズームレンズの望遠側、つまり焦点距離の長い側を指す。

な

ノイズ
撮影時に入るゴミのようなドットのこと。画像を拡大すると分かるが、本来ないはずの色が、ドット単位で点在する。発生原因はいくつかあるが、CCDはシャッター速度が一定以上遅くなるとノイズが増加する傾向にある。

ノイズリダクション
撮影時に入るノイズを取り除くこと。パソコン上でソフトを使って行うことができる。撮影時(主にスローシャッター時)にノイズリダクションを行えるデジタルカメラもある。

は

被写界深度
ピントが合っているように見える範囲。レンズはCCD上に面として被写体を結像させるが、ピントを合わせた面の前後の範囲内もピントが合っているように見える。この範囲のことを指す。なお、被写界深度は、レンズの焦点距離が長いほど浅く(ピントのあう範囲が狭く)、短いほど深い(ピントのあう範囲が広い)。また、絞りを開けるほど浅くなり、絞るほど深くなる。

フラッシュ
シャッターと同時に瞬間的な光を発する照明装置。ストロボやスピードライトともいう。デジタルカメラに内蔵されたフラッシュは自動調光式なので、最適な露光値になるように瞬間的に発光量を制御するセンサーが搭載されている。

ホワイトバランス設定
様々な光源の下で白い色を決めること。また、さまざまな色温度を持った光源下で白い被写体を白く写すための機能。白はすべての色の基準となるので、白を決めれば自然な色合いで撮影することができる。人間の眼には高性能のホワイトバランス機能があるので普段意識することはないが、CCDやフィルムでは、電球下では赤く写ったり、蛍光灯下では緑色に写る(色の補正がされない)。機種によってオート・固定・マニュアルの違いはあるが、デジタルカメラやビデオカメラには必ず搭載されている。

ら

露出
CCDに光を当てること。もしくは、その量を示す。光を当てすぎると写真が白く(明るくなり過ぎに)なり、少ないと写真が黒く(暗くなり過ぎに)なる。白くなり過ぎる場合はオーバー(露出オーバー)と呼び、黒くなり過ぎる場合はアンダー(露出アンダー)と呼ぶ。

露出補正
カメラに内蔵された露出計は、その被写体状況を十分に判断できないことがままある。特に白い被写体や黒い被写体は、アンダーやオーバーになりやすい。そこで、カメラの判断した露出に対して、より明るく、または暗く写るように補正を加えること。また、意図的に明るく写したり、暗く写したりする場合にも使用する。

A

AE
「Auto Exposure(自動露出)」の略。被写体の明るさをカメラが判断して、自動的に露出を決めてくれる機能のこと。大別すると、プログラムAE、絞り優先AE、シャッタースピード優先AEの3タイプがある。 プログラムAEでは、状況に合わせて最適な絞りとシャッタースピードの組み合わせをカメラが自動的に判断してくれる。

C

CCD
「Charge Coupled Device」の略。レンズから入った光を感じて電気信号に変換するセンサーのこと。画像を取り込む、銀塩カメラでいうフィルムに相当する部分。トンボの複眼のように小さな目が並んでおり、その数が画素数(総画素数)となる。そこから出力される情報のうち、静止画データとして有効に反映される画素の数を「有効画素数」と呼ぶ。CCDを日本語で「電荷結合素子」ともいう。

E

EV
「Exposure Value」の略。露光量を表す単位で、絞り値F1.0でシャッタースピード1秒の露光量を「EV0」と定め、そこから絞り値またはシャッタースピードが1段上がるごとに「EV1、2、3･･･」と増えていく。

F

F値
絞りの数値。カタログのスペックを見る場合、大文字の「F」の場合はレンズの明るさ（開放絞り値）を表し、数値が小さいほど暗い場所でも比較的速いシャッタースピードを使うことができる。小文字の「f」の場合はレンズの焦点距離を表す。

fps
「Frame Per Second」の略。1秒間に何枚の画像を表示しているかを示しており、動画のなめらかさを表す。

I

ISO感度
フィルムの光に対する敏感さを数値化したもので、最適な再現をするために必要な露光量の目安数値にもなる。ISOとは国際標準化機構のこと。デジタルカメラの場合はこのような基準がないため

「ISO100相当」のように目安として数値が大きいほど、暗い場所での撮影に強いことを示す。

J

JPEG

画像を効率よく圧縮アルゴリズムを使った画像ファイル形式を指す。容量を小さくできるので多くのデジタルカメラに使われている。非可逆圧縮なので、圧縮率を高くすればするほど元画像クオリティは損なわれてノイズが生じる。

P

PictBridge(ピクトブリッジ)

デジタルカメラとプリンタを直接つないで印刷するための業界標準規格。CIPA(カメラ映像機器工業会)によって策定された。デジタルカメラと対応プリンターを付属のケーブルで接続するだけで、パソコンを介さず直接写真のプリント指示ができる。メーカーが違っても、双方がPictBridge対応ならばUSBケーブルで接続して印刷可能。カメラの液晶モニターでプリントしたい写真を選ぶことができ、プリントメニューも表示される。